

事業報告書（令和 4 年度）

事業名 満月 BAR

団体名 満月 BAR 担当者名 吉川 慧

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

① 2022 年 9 月 10 日（土） 17 時～21 時 @西川緑道公園

出演者：モスラミュージック 片山陽介（DJ）

② 2022 年 10 月 8 日（土） 17 時～21 時 @西川緑道公園

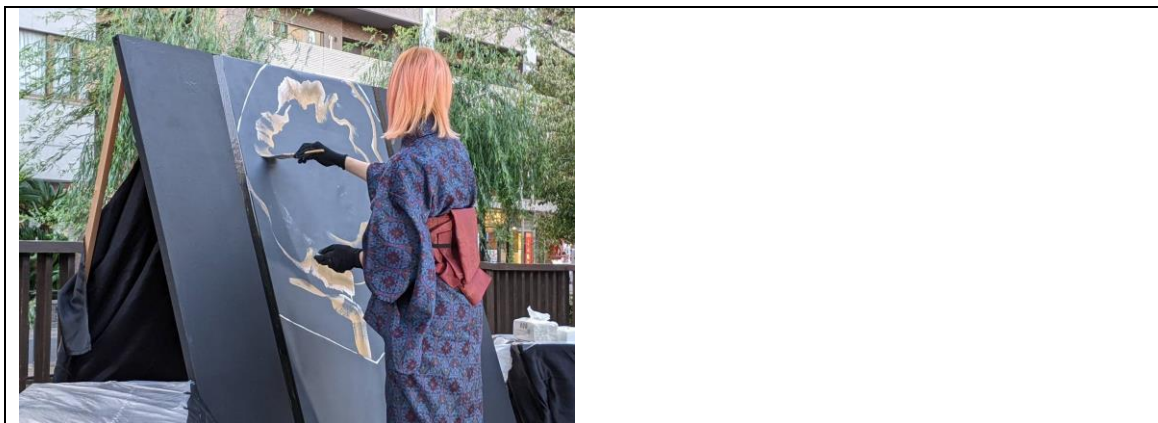
出演者：神宝麻衣（ライブペイント）

- ・実行委員：20 人 岡山県内の 10 代～20 代の学生および社会人のボランティア
- ・来場者：約 100 人

西川エリアに店舗を構える飲食店と協力し、飲食イベントを開催。

「岡山の 0 次会」をコンセプトに、西川エリアを訪れるきっかけづくりを行った。





2. ESD の視点

①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

1. 自身の住むまちに対する意識の変化

実行委員の大半が県外出身者で、大学進学を機に岡山に来たメンバーが多く、本事業に携わる前後で岡山市に対する知識・関心・興味を向上させることができた。特に大学 3 回生以降の世代は、進学のタイミングがコロナ禍であり、まちを知るきっかけも少なかった。本事業では、岡山市内で活動する飲食店やアーティストとコラボレーションしたイベントを企画することで、実行委員がまちを知るきっかけづくりができたと感じる。事業参加前後で、実行委員から「以前は全く知らなかった岡山市について興味が増した。」との声が出されており、学生を中心とした次世代を担う世代のまちに対する関心を引き上げることができた。

2. 西川エリアに対する興味の向上

本事業で実施したイベントを通じて、各回 100 名以上のお客様にご来場いただいた。コロナ禍で外出や外食の規制も続く中で、多数の方にご来場いただき、西川エリアを改めて知る、訪れるきっかけづくりができた。多数の飲食店とコラボレーションしたこともあり、イベントをきっかけに後日飲食店を訪れる人が増えたとの声もあり、参加者がまちを知るきっかけはもちろん、訪れるきっかけづくりを創出した。

②どのように学び合いを取り入れたか

1. 自身の住むまちに対する意識の変化

・若者のチャレンジ精神の向上

各回大学生等の若手メンバーを企画リーダーに据え、各回のテーマやコーディネート、飲食店・アーティストの誘致を行い、イベントの企画を一から実施した。そうすることによって、地域と協働することの重要性を実感することができ、また主体性の向上を図った。

2. 西川エリアに対する興味の向上

・西川エリアの飲食店を知るきっかけ

西川エリアに店舗を構える飲食店を誘致し、約 10 店舗に協力いただいた。近隣の方には西川エリアにさらに愛着を持ってもらい、近隣以外の方には西川エリアを知るきっかけになるよう工夫した。

飲食店へのヒアリングにより、当イベントをきっかけにお店を訪れるようになったと感想をいただいた。

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

協力いただく飲食店やご来場いただいたお客様と積極的にコミュニケーションを行い、まちに対する課題やイベントに対する意見を引き出し、イベントに落とし込むよう企画した。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

1. 実行委員 15 人/回以上（10 代～20 代 学生および社会人） 達成
2. 来場者数 100 人/回以上 達成

SNS 等を用いて積極的に広報を実施した。

また、他の NPO 団体と協力し、メンバー内の交流を図った。

イベントの企画運営に関わった若手メンバーは、イベントを通して西川エリアの飲食店や地域の方と協働する大切さを学ぶことができた。

西川エリアを訪れるきっかけとなることを意識してイベントを実施した結果、当イベントに来場したことがきっかけで飲食店を訪れるようになった方もいるなど、西川エリアの魅力を発信することができた。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

- ・岡山市内外問わず大学等へ働きかけを行うなど、ボランティア参加の間口を広げる。
- ・次年度以降もイベントの定期的な開催を継続し、まちの魅力を向上させ、西川エリア全体の活性化を図る。